

平成 27 年 3 月 23 日

おおつ公園レポ ステップ 2 (実証実験) 結果報告

公益財団法人 大津市公園緑地協会

1. おおつ公園レポ 導入の背景

市内には大小の公園を合わせて 213 ヲ所もの市営・県営公園がある。

市民目線で公園を見ると当協会職員が気づかない点も発見できる。

パソコン並みの性能を持ったスマートフォンが若者を中心に急速に普及。

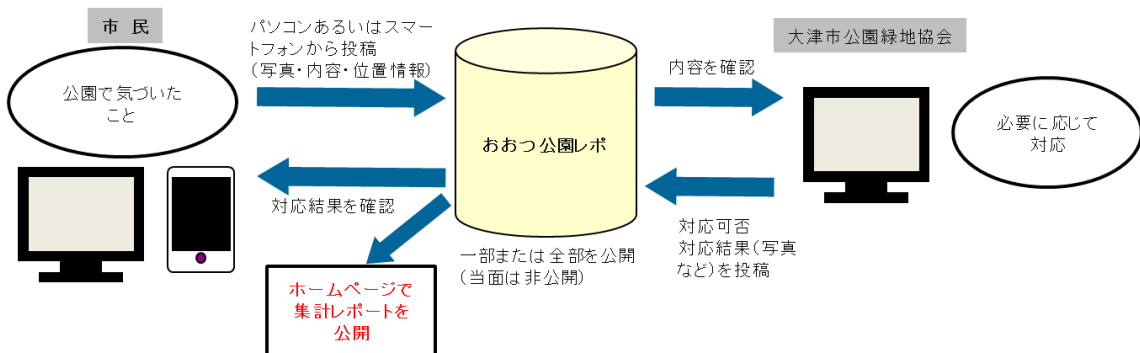
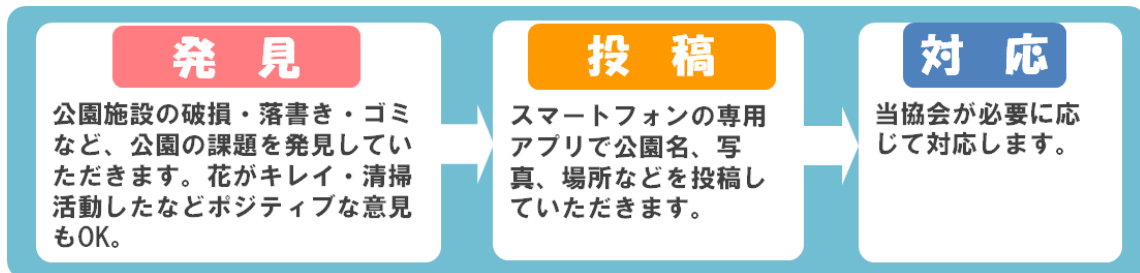
市民がスマートフォンやパソコンから、公園で気づいたことを写真付きレポートとして投稿していただく。

市民からの情報は、より安全・安心・快適な公園づくりに役立てられる。

さらに、台風・地震など災害時には被災情報を投稿することで、よりの確に素早く被災状況の把握が可能となる。

2. おおつ公園レポ とは

- (1) 市民の皆様は公園のサポーターとして、スマートフォンやパソコンから公園で気づいたこと（施設がこわれている・ゴミが散乱しているなど）を投稿していただく取り組みです。



3. 導入計画

(1) ステップ1・2・3と、段階的に計画を進めます。

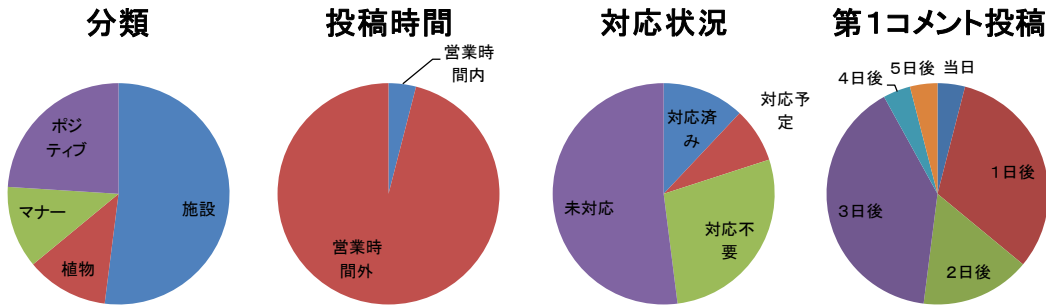
	ステップ 1	ステップ 2 (実証実験)	ステップ 3
期間	平成 26 年 4 月 1 日から運用継続中	平成 26 年 10 月 1 日から平成 27 年 1 月 31 日まで	平成 27 年度早期 (予定)
対象公園	大津市内 213 個所の市営公園全て 滋賀県営公園 (湖岸緑地及び 2 公園)	当協会の指定する (市・県営) 公園 (4 学区 11 公園)	大津市内 213 個所の市営公園全て 滋賀県営公園 (湖岸緑地及び 2 公園)
対象者	当協会職員	対象となる公園周辺の方	大津市全市民
公開範囲	当協会職員のみ公開	当面は、投稿内容は非公開。(他の人の投稿は見られない)	投稿内容は、実証実験の結果を検証し、全て公開の方向で検討中

4. ステップ 2 (実証実験) 市民による運用一概要

- (1) 実施期間：平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 1 月 31 日
- (2) 対象公園：市内 4 学区の計 11 公園
- (3) 対象者：公園周辺の住民および利用者
- (4) 参加方法
 - ・ 本名での登録制とする
 - ・ 申し込み用紙を郵送または FAX する。
 - ・ 個人情報の保護を重視し、使用目的を明確にした。
- (5) 広報
 - ・ 自治連合会への説明
 - ・ ホームページで告知
 - ・ イベント等でのチラシ配布

5. ステップ2（実証実験） 市民による運用－結果

- (1) 投稿数：31件 ユーザー数：16名
- (2) 分類・・・施設関係の問題報告が多い。紅葉がきれい、清掃活動しました、などポジティブな意見もあった。
- (3) 投稿時間・・・ほとんどは土・日か早朝の投稿であり、当協会の営業時間外であった。
- (4) 対応状況・・・未対応が約半数を占めた。
- (5) 第1コメントの投稿日・・・ほとんどの投稿に対し、3日以内に1回目の返事をした。



- (6) 良くなかったところ
 - ・ 未対応が約半数あるが、なぜ対応ができないのか説明が無い。
 - ・ 対応後の写真が投稿されてない。
 - ・ ユーザー数が少ない。
 - ・ 投稿数が少ない。投稿が一部ユーザーに集中していた。投稿数がゼロのユーザーも。
- (7) 良かったところ
 - ・ 危険発見につながる事例があった。
 - ・ 不適切な投稿がゼロ件だった。
 - ・ 営業時間外の投稿が多く、当初のねらい通りだった。
 - ・ マスコミに多く取り上げられた。

平成 26 年 11 月 15 日 京都新聞

平成 26 年 11 月 1 日 びわ湖大津経済新聞



平成 26 年 9 月 16 日 クラウド Watch



平成 26 年 5 月 22 日 滋賀報知新聞



(8) 改善策

- ・ 説明不足
原因は、対応できるかはっきりしないものは回答を控えていたため。危険箇所など緊急を要すること、すぐできること、大がかりで時間のかかるもの、できないものなどレベルを分け、できないものはできないとはっきり回答する。また、それらの回答ができる執行体制を見直す。
- ・ ユーザー数が少ない
原因は、公園を限定したこと、申し込みがWEBからできなかったこと、主な周知手段が自治連合会だけであったことなどが考えられる。
申し込み方法を見直し、PTAや大学そしてボランティア団体などへ積極的に周知し、ユーザー数を増やす努力をしたい。
- ・ 投稿数が少ない
積極的に投稿してもらうため、「各公園の開花状況を投稿してください」など当協会がテーマを出し、投稿を募るなど、楽しみながら投稿できる機会を増やしたい。
また、ガバメント2.0は市民が参加してこそ成立するという共通認識を持ち、より多くの市民に参加してもらいたい。

ステップ2の課題を洗い出し、ステップ3につなげます。

6. ステップ3に向けての挑戦

- (1) ステップ3では、範囲を全市の公園に広げ、市民が投稿した内容はオープンにする予定です。宅急便の追跡サービスの手法を取り入れ、課題の状態の見える化を実現します。
- (2) 対応できるもの・できないものを早期に判断し、できないものは、相手方と話をすることで解決していきます。
- (3) 投稿内容がオープンになれば、市民が自主的に公園の課題を解決するボランティア活動が期待できます。また、そのような活動を活性化する環境を整えます。
- (4) タクシー無線のように、投稿を受けると、対象公園の近くで作業している職員がその日に対応できるような体制を検討します。
- (5) 会員登録については、郵送・FAXで行ってききましたが、WEB（インターネットなど）で行えるよう検討しています。

課題は多くありますが、投稿という人の善意を大切に
利用者目線で考え、挑戦していきます。